

■北フェス後はしっかり切り替えられていますか

6月13日、14日の「北フェス」お疲れさまでした。各年次・各クラスともに創意工夫を凝らした展示・発表などがなされており、この北フェスに向けて、放課後や休日などの時間を使ってとても頑張ってきたことが伝わりました。北高校生の個性・底力が発揮された良い北フェスだったと思います。

しかし、北フェスが終わったと思えば、6月26日(木)からは1学期末考査です。もう10日を切っています。この北フェス後の日曜日と月曜日はどれぐらい勉強できたでしょうか。もし、「この2日間の勉強時間が0分だった」という人がいれば、要注意です(とくに受験が近づいてきている3年生は0分という人はいないと思いますが……)。成績を伸ばすためには、オンとオフの切り替えが大切です。「楽しむときには楽しむ、勉強する時には勉強する」としっかり切り替えができる人が成績を伸ばすことができます。

そのためには、事前にどのように勉強するか計画を立てましょう。普段から勉強計画を立てることは大切ですが、せめて定期考査前だけは必ず計画を立ててから勉強するようにしましょう。そして、計画を立てる上では、以下のことに気を付けることが大切です。



(1) 学校行事や自分の予定などを把握して、いつが勉強できる日なのか、勉強が難しい日なのかを振り分けられるようにしましょう。

(2) 考査の日程から逆算して、いつまでに課題を終わらせるかを決めましょう。

※考査勉強が「ワーク」や「提出課題」を終わらせるだけにならないようにしましょう

※間違えたところは何度もやり直せるように計画を立てましょう

(3) 苦手な科目、分からないところが出そうな科目はなるべく先に勉強計画を立てる。

※分からないところを先生や友達に聞きに行けるように、早めに勉強を始め、どこが分かっている、どこが分かっているかを明確にするようにしましょう。

これはほんの一例ですが、勉強計画を立てる上では、いつまでに何をするかを明確にする必要があります。特に苦手な教科・科目に関しては時間がかかるとしますのでしっかり重点的に計画を立てられるようにしましょう。また、「中間考査で上手くできなかったな」「実力を発揮できなかったな」と思うところに関しては、修正して、期末考査では同じ失敗をしないようにしましょう。

また、家で勉強する自信がないという人は、6月21日、28日にサタスタを全年次で実施しています。スマホも使用できない環境下ですので、ぜひ参加してください。

■外部模試の受付が始まっています

河合塾や駿台などの外部模試の受験申込の受付が始まっています。進路通信第2号でも紹介しましたが、これらの模試はほとんどの場合、大学受験を志望する生徒しか受験しません。とくに3年次対象の全統模試は3年次生だけでなく、多くの浪人生が受験していますので、同じ受験生との位置を正確に把握することができます。また、7月27日の全統共通テスト模試は夏休みの前半に実施されるため、「今、受けて〇〇点だったから、夏休みに20点上げられるように、このように勉強して行こう」と計画を立てるには最適です。そのため、ぜひ受験してください。

また1,2年生の中にも、第1回の模試は部活動の予定と被ったため受験できなかったという生徒もいるかもしれません。もし、部活動の予定がつけば、第2回の全統模試を受けて、現時点でどれぐらいの実力があるのかを全国の高校生と比べてみるのもいいかもしれません。

以下は、現時点で学校に届いている外部模試の案内です。

模試名	対 象	会 場	受験日	申込締切
25年度第2回全統共通テスト模試	3年次	大学会場	7/27	6/20
25年度第2回全統記述模試	3年次		8/24	7/11
オープン模試(東大・京大・名大・早慶)	3年次	詳細は申込用紙に記載		
25年度第2回全統高2模試	2年次	選択制	8/17	7/11
25年度第2回全統高1模試	1年次	選択制	8/17	7/11
第2回駿台 atama+共通テスト模試	3年次	オンライン	7/19~8/4	7/10
		会場	7/20	
駿台 atama+学力判定テスト	1・2年次	オンライン	7/8~8/5	7月分は 6/26

※3年次生対象の全統・オープン模試の案内は3年次の全生徒に配付しています。それ以外の申込用紙に関しては、進路閲覧室前のレターボックスに入れています。

■科目選択をしっかりと考えよう

1・2年生は今週に科目選択の説明会があると思います。毎年、何人かは「受験で〇〇が必要なのに、とっていなかったのも独学で勉強せざるを得なくなった」という声を聞きます。もちろん、科目選択から「気持ちが変わる」というのは伊丹北高校生だけでなく、全国の高校生であることですが、ポイントは迷っているものがあれば、なるべく「入試に必要な科目」が多い選択肢を優先して選ぶことです。

例えば、商学部と看護学部で迷っている場合、私大の商学部であれば、「英・国・地歴」で受けることができる大学が多数です。しかし、看護学部は私大でも「数学」や「理科」を必要とする大学があります。そのため、大は小を兼ねるではありませんが、「まだまだ迷っている」「どちらにするか甲乙つけがたい」という場合は、必要な科目を多い方の進路を考えながら科目選択をしましょう。「〇〇をとったけど受験で使わなくなった」よりも「〇〇が必要なのにとっていなかった」の方が、非常に大変なので……